

第4回松本市学校部活動の地域展開検討協議会 会議録

- 1 開催日時 令和8年3月24日（火） 午前10時00分から午前11時40分まで
- 2 場 所 松本市立博物館 講堂
- 3 出席委員 会 長 高山 智史 氏
副会長 横内 俊哉 氏
委 員 中川 満英 氏
委 員 丸山 剛生 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 青山 織人 氏
委 員 小嶋 和好 氏
委 員 本間 崇教 氏
- 4 事務局 曾根原教育長、赤羽次長、山名教育監、小口文化観光部長、遠藤スポーツ部長、二木梓川地区地域づくりセンター長、野口市民相談課長（住民自治局長代理）、清澤文化振興課長、百瀬スポーツ事業推進課長、輪湖スポーツ施設整備課長、小西教育政策課長、内山学校教育課長、百瀬文化振興課長補佐、内山スポーツ施設整備課長補佐、降旗教育政策課長補佐、幅総括コーディネーター、齋藤スポーツ事業推進課係長、有賀学校支援室指導主事、上嶋生涯学習課係長、篠原学校教育課施設担当主査、中島スポーツ事業推進課主事、寺社下生涯学習課主事、長坂文化振興課事務員、竹内教育政策課主査、伊藤教育政策課主任

<会議事項>

- (1) 部活動の地域展開による生徒の動向に関するアンケート調査結果について（自由記述）
幅総括コーディネーターが説明
- (2) 松本市における部活動地域展開の先行事例（地域クラブ紹介、交通安全教室）
幅総括コーディネーターが説明
(委 員) 松島中学校での相談会の取組みについて、学校主導での実施には負担もあるということだが、来年度以降の展開はどのように考えているか。
(幅CO) 全市対象の取組みとしては、まつチャレフェスタの開催を予定しています。学校単位での取組みについては、相談会、体験会といった取組みが難しい場合、地域クラブ活動一覧表を作成していただくなどの方法で、説明をお願いしたいと考えています。
(委 員) スポーツに関しては令和8年の夏までで活動が終了する。1年生にとっては、その後の活動がどうなるのか不明であることが大きな不安要素であるの

で、地域クラブに関する情報の提供が重要である。まとまった情報の提供や、どこに行けば情報が得られるのか明示する必要があると考える。

(委員) 子どもが地域展開の仕組みを理解し、納得したうえで主体的に選択できるよう、情報提供や説明を行ってほしい。

(委員) 事態がややこしいのは、これまでの部活動の学区単位で行われていたことが、展開によって全市的な取組みになっているため。子どもの希望に沿ったクラブの情報を得られるよう、全市的に募集をしているクラブの情報も発信を継続していく必要がある。学校もアンテナを高くして、行政と連携してそういったクラブの情報も得ていく必要がある。

(委員) まつチャレ、地域展開が進展していくうえで、今が一番大切なタイミングと考える。各クラブが周知に取り組める体制が十分でないことも考えられるため、クラブの情報を収集して紹介する、クラブをコーディネートしてガイダンスを開催するような取組みに力を傾斜する必要があると考える。

(3) 課題管理表の対応報告

降籙教育政策課課長補佐が説明

(委員) 2月11日に開催された多事争論会に家族が参加したが、本市での様々な取組みへの理解が深まったと言っていた。情報の発信、共有は重要である。また、会議事項(1)のアンケートに関して、様々な声を大切にする必要があるが、一方で、全体としての方向性をブレないように進めていくことも重要である。

(委員) 松本大学での指導者養成実証事業では、前期の座学と後期のクラブでの実習を経て、受講生の半数が県人材バンクに登録した。来年度も活動を進める予定である。クラブの認定制度に関しては、システムの運用が容易になるよう、フォーマット化されるような取組みも必要ではないか。

(4) 地域展開マネジメント支援の業務報告について

スポーツデータバンク(株)柏木氏が説明

(5) 松本市部活動地域展開推進計画の改定案について

教育政策課降籙課長補佐が説明

(委員) 指導者の質に関して、子ども性暴力防止法に関する言及は必要ないか。

(降籙課長補佐) 日本版DBSの制度については、運用開始が2026年12月であり、現状では地域クラブが自由に確認できる仕組みとはなっていません。現状、面接時の確認や誓約書の提出、複数人での指導などの対応が考えられます。記載するかどうかについては、内部で検討させていただきます。

(6) 運動系クラブの地域展開の進捗状況及び今後の対応について

百瀬スポーツ事業推進課長が説明

(委員) 今後、クラブが中体連の大会に参加できるのか否かが重要になってくる。中体連事務局と連携し、状況の変化を把握しながら進めてほしい。

(百瀬課長) 中体連事務局としっかり連携し、漏れがないように進めてまいります。

(委員) バレーボールの部活動数に比べてまつチャレ登録数が少ないが、受け皿の確保について、進捗はどうなっているか。

(齋藤スポーツ事業推進課係長)

バレーボール協会で受け皿整備に取り組んでいます。四賀で女子が1チーム、筑摩野中学校近辺で2チームが立ち上げを予定しています。今後も協会の役員が先頭に立って、満遍なくチームを立ち上げる取り組みを進めていく予定です。

(委員) 子どものニーズにマッチするように受け皿を整備しなければならないが、なかなか難しい。部活動の終了に当たっては、夏までの活動に参加するにしても、1年生の練習場所が不足することや道具を購入するのかといった問題がある。地域差が生じるのはやむを得ないが、学校ごとの現状・課題について、把握していただきたい。

(7) 文化系クラブの地域展開の進捗状況及び今後の対応について

清澤文化振興課長が説明

(8) 中学生が参加可能な公民館サークル等の調査結果について

生涯学習課廣田課長が説明

(補足) 大人の活動の中に中学生が参加していく形で、放課後や休日における中学生の居場所を広げることを目的としています。サークル等に参加するための運用体制(受付手順など)を整えたうえで公表を予定しています。

(委員) 子どもの学びを地域全体で支える理念やコミュニティスクールの理念からも、この取組みは良いことだと考える。ただし、サークル団体の活動状況などは流動がありうるので周知には注意が必要。公民館では、文化祭でのスタッフとして、中学生に参加してもらえないかとも考えている。

(委員) 地域住民の活動が受け皿となっただけのこと、子どもが地域の活動・運営に携われることは大変ありがたい。また、部活動の数としては少ないが、科学部などの全国大会を目指す活動、高校などでの学びにつながる活動が行われてきた。これらは、部活動だったからこそ大会を目指すという活動ができたと思う。文化系の中でも、大会を目指すしながら行う活動が、今後もうまくできていくと良い。

(閉 会)